



Leyard & Planar ブース

# レイヤード

レイヤードは子会社のPlanarと共に、欧州最大のAV展示会「ISE (Integrated Systems Europe) 2026」(スペイン・バルセロナ、2月3-6日)において、LEDビデオウォールを中核とする幅広い製品群を披露した。今回の展示から浮かび上がるキーワードは、実装主義という姿勢だ。高精細化の先にある、物理性能と運用信頼性を両立させる設計思想である。

## ISE2026で示した総合力

LED市場は既に成熟段階に入っている。単純なピッチ縮小やスペック比較では差別化が難しい局面だ。そうした中でレイヤードは、マイクロピッチの精緻さとCOB (Chip on Board) 技術による高信頼性を軸に、表示の見え方と使われ方を同時に押し上げる戦略を打ち出した。

展示ブースでは、製品単体の性能訴求にとどまらず、用途別に最適化さ

# 次世代LED戦略を披露

れた構成提案が示され、導入後の運用環境までを見据えたメッセージが明確に打ち出されていた。

COBの意義は単なる高画質化にとどまらない。COB技術を採用した高性能LEDビデオウォールである。LED素子を基板上に直接実装するCOB構造は、輝度ムラの抑制、色再現性の向上、耐衝撃性、放熱性能といった点で優位性を持つ。

ISE会場では大画面による8K相当の高解像度デモが展開され、深い

ク提示にとどまらない実表示での完成度を示した。

COBの意義は単なる高画質化にとどまらない。LEDも展示の柱となった。微細化そのものは市場で一般化しているが、レイヤードはムラの抑制、視野角特性、安定駆動といった物理特性の完成度で差別化を図る。

デザインルームのような観視距離の短い空間や細部表現が求められる用途では、単なるピッチ競争ではなく均質な画をど

の裏付けである。Hi-Microは実装安定性と歩留まり改善の観点でも紹介され、超微細領域での量産性確保に向けた取り組みが示された。

さらに今回のISEでは、IP65相当の防塵・防水性能と滑り止め機能も備えたLEDフロアや耐衝撃対応パネルも披露された。イベント用途に限らず、テーマパークや常設型没入空間など継続稼働を前提とする環境への適応力を示す。

## 物理特性の完成度で差別化を図る

黒表現と安定した視認性が印象づけられた。映像ソースの階調表現や高速動作時の残像抑制なども確認でき、単なるスペック

さらに保守性やモジュール交換の容易さにも配慮した設計が説明され、トータルコストを意識した提案であることが強調

う実現するかが焦点となる。品質管理工程でのLED素子選別やドライバIC制御の最適化がそ

軽量・高透明設計のクリエティブLEDも含まれ、建築や商業演出との融合を意識したラインア

する没入型コンテンツを同時に設計する方向へ舵を切っている点である。パッケージング、信号処理、耐候性、設置柔軟性までを含めた総合力の提示は、成熟市場における競争軸の再定義と言える。

## 高精細化だけでない「実装主義」を前面に

### COB技術と独自のHi-Micro技術で信頼性と均質性を追求



レイヤードジャパン営業部次長の星勉氏(左)と技術部フィールドエンジニアの奥田光太郎氏



MG0093-2COB Microによる8Kビデオウォール



レンタル向けの製品ラインアップも充実

LEDは普及段階に入り、価格や解像度だけでは優位性を語りにくい。だからこそ、表示品質の安定性と実装現場での信頼性が差を生む。ISE 2026におけるレイヤードの展示は、単なる新製品発表ではなく、使える表示技術へと進化させるための戦略的メッセージだった。

物理性能を磨き上げ、その上で用途を拡張する。レイヤードはLEDビデオウォールの役割を改めて問い直している。



11.9×26.7インチの縦型ユニットによって美しい曲面設置が可能なDirectLight Slimシリーズのコントロールルーム設置のデモ